

家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン主催 オンライン・シンポジウム

若手農林漁業者の提案！ —日本から世界へ発信する持続可能な農と食—

解題

愛知学院大学准教授／FFPJ常務理事 関根佳恵

2021年7月27日 於：オンライン(Zoom)

2019年～2028年 国連「家族農業の10年」がスタート

家族農林漁業を中心とした食料・農業・農村政策の転換へ



農場数の90%以上が
家族農業

国連の統計によると、世界の農場数の90%以上（5億人以上）は、家族または個人によって経営されている。また世界で漁業を営む1.4億人の90%は、小規模な家族漁業である。



食料の80%以上を
生産する家族農業

家族農業は、世界の農地の70～80%を用いて、世界の食料の80%以上を供給している。食料保障の要であり、貧困と飢餓の撲滅において最も重要な役割を果たす。



SDGs実現の
鍵を握る家族農業

SDGsに掲げられた目標「飢餓をゼロに」を達成し、食料安全保障および栄養改善、気候変動に強い持続可能な農業を実現するためには、「家族農業の10年」を通じた行動が欠かせない。

資料：家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン(<https://www.ffpj.org/>)より転載



ホーム

家族農業の10年

私たちについて

お知らせ

お問い合わせ



家族農林漁業 プラットフォーム・ジャパン

私たちは国連「家族農業の10年」と連携し、持続可能な社会の実現を目指します。

<https://www.ffpj.org/>



さらに知りたい方にお勧めの書籍

世界食料フォーラム(World Food Forum: WFF)



<http://www.world-food-forum.org/> ≡



The World Food Forum

WFF

While we currently produce enough food to feed every man, woman, and child in the world, there are **nearly 700 million people who are hungry**, a number which is growing in the wake of the COVID-19 pandemic. An increase in threats like pests, plagues, conflict, and climate change are compounding this **global food crisis**.

To mobilize action and identify solutions to address these threats, we are launching the **World Food Forum (WFF) – a youth-led movement and network to transform our food systems** to achieve the **Sustainable Development Goals (SDGs)**, in particular “zero hunger”.

危機から持続可能な社会へ

◆コロナ禍により露呈した農と食のシステムの脆弱性

- ◆グローバルなサプライチェーンの寸断：加工原料、種子等
- ◆農産物の輸出規制：ロシア、ウクライナ等
- ◆外国人労働力依存の不安定性
- ◆輸出・インバウンド需要の低迷
- ◆外食・加工資本との契約栽培の需要低迷



- ◆政府：加工原料の国産回帰、食料保障、スマート技術、輸出推進
- ◆市民：マスク同様、食料が国産であることの重要性を意識、3密回避で
2拠点居住、農村移住、新規就農・地域おこし協力隊希望者増加

危機から持続可能な社会へ

- ◆日本農林漁業をめぐる3つの危機
 - ◆環境的危機：気候変動、豪雨、土砂災害、資源枯渇、感染症、鳥獣害等
 - ◆社会的危機：人口減少、高齢化、生産・生活基盤崩壊、食料保障・主権(38%)
 - ◆経済的危機：後継者難(就農者の高齢化率7割)、耕作放棄地(農地の1割)

- ◆日本の新自由主義的改革
 - ◆農林漁業経営の規模拡大・法人化
 - ◆企業の参入：規制緩和
 - ◆農業・農村を支えるシステムを解体：農協、卸売市場法、農地法、種子法等
 - ◆スマート農林水産業：先端技術偏重
 - ◆貿易自由化と輸出偏重：国連人権理事会はWTO農業協定廃止を提言(20年7月)
 - ◆統計予算の削減：実態がみえないまま政策を打つ
 - ◆手薄い環境政策：有機農業0.5%

危機から持続可能な社会へ

◆農業政策の転換???

◆新たな食料・農業・農村基本計画(2020年3月)

◆中山間地域における多様な複合経営モデル：37類型(2021年3月)

◆みどりの食料システム戦略(2021年5月)

◆新たな森林・林業基本計画(2021年6月)

◆新たな水産基本計画(2022年予定)

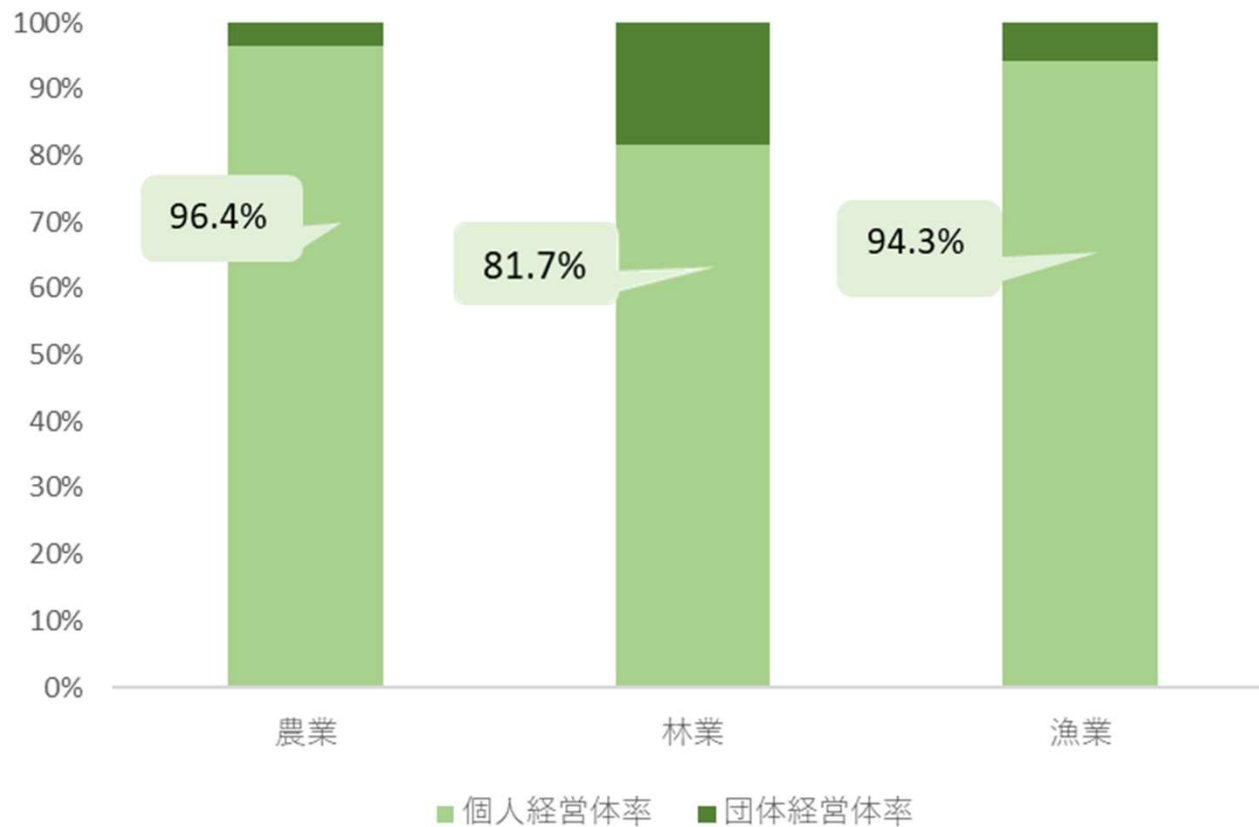


図1 農林漁業のほとんどが個人経営体

資料：農業と林業については2020年農林業センサス、漁業については2018年漁業センサスによる。

小規模な
家族経営が多い
日本の農林漁業

2ヘクタール未満の小規模な農業経営体が多い

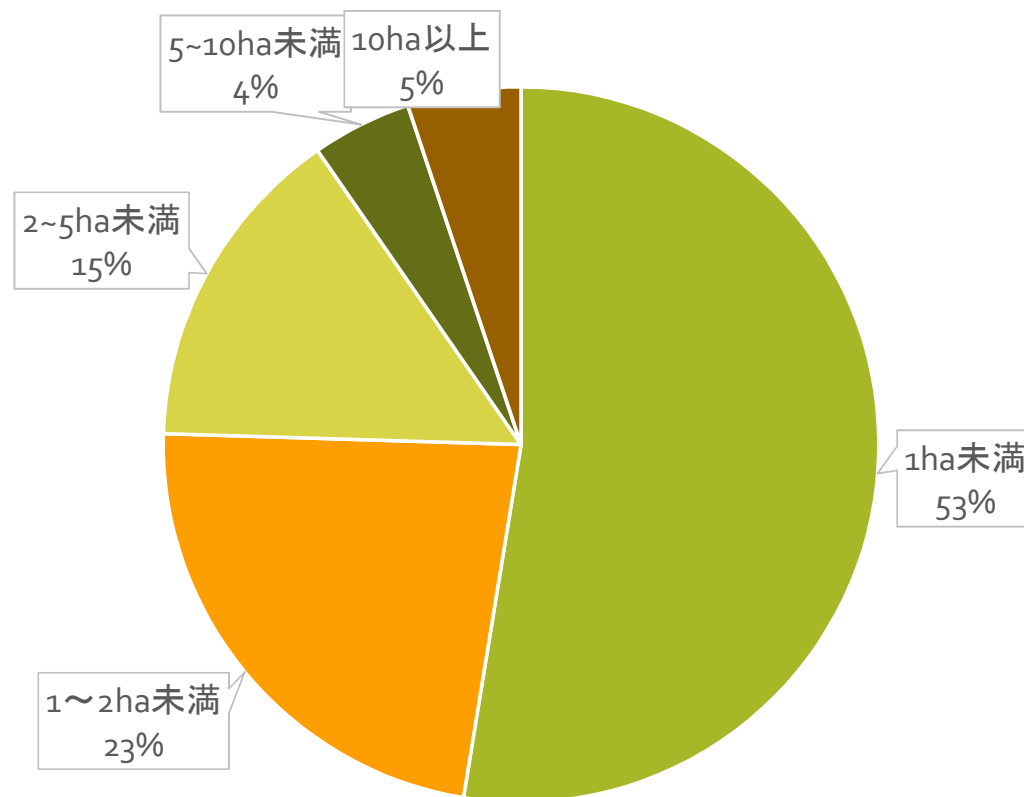


図2 小規模な農業経営体の割合が高い

資料：2020年農林業センサス

高まる自給的農家の割合

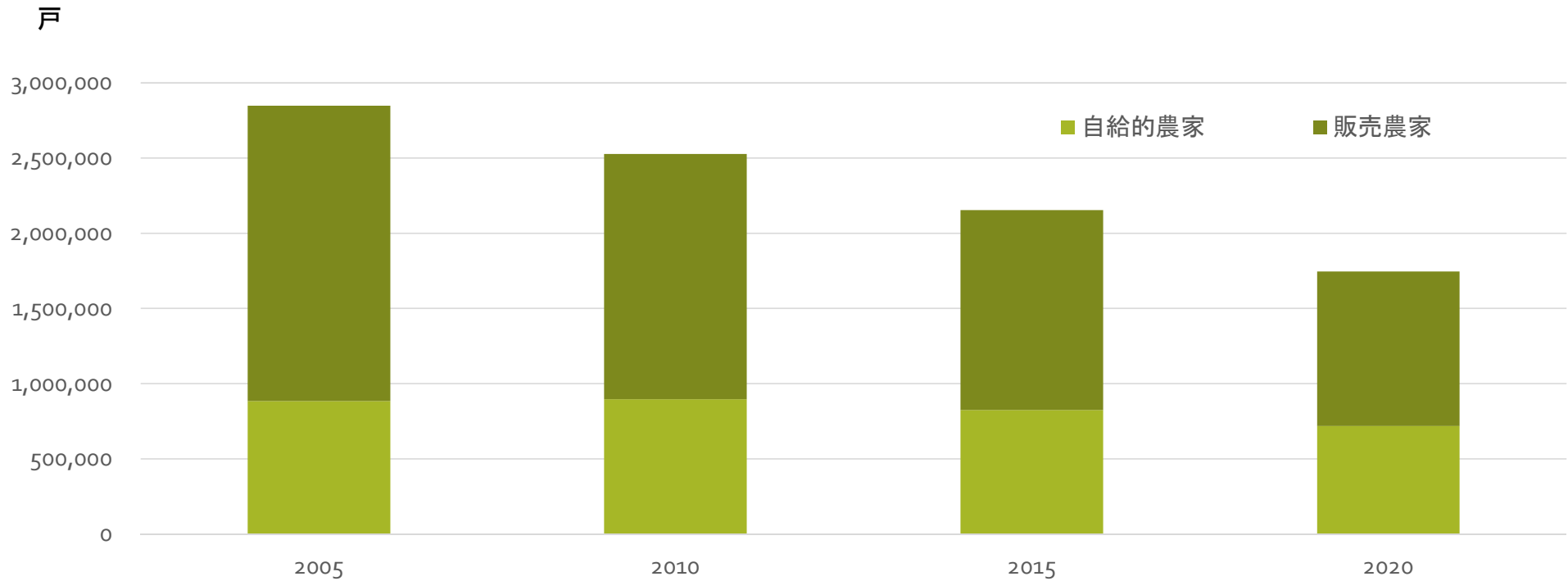


図3 自給的農家の割合が高まっている

資料：農林業センサス隔年版より作成。

高まる高齢化率 49歳未満は1割

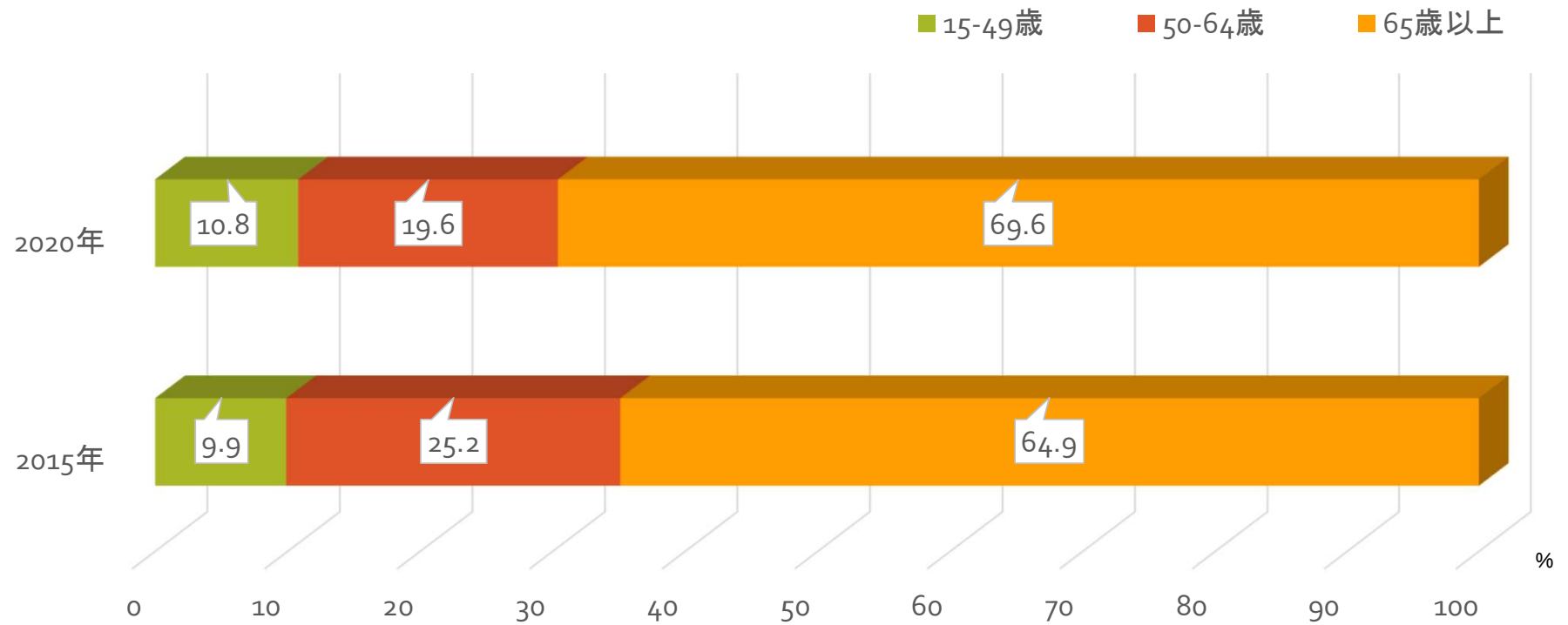


図4 高まる高齢化率 49歳以下は1割
資料：農林業センサス各年版

新規就農者の推移

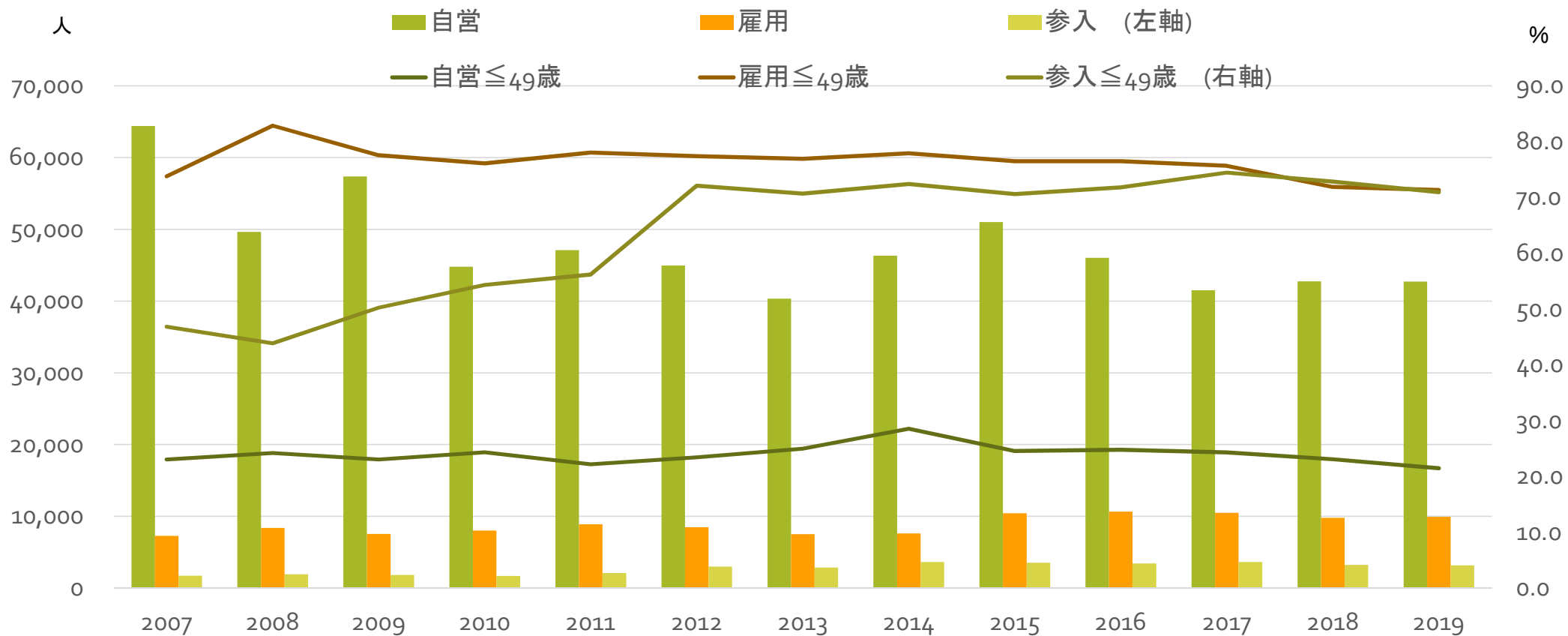


図5 就業形態別の新規就農者数の推移と49歳以下の割合

資料：農林水産省「新規就農調査」

新規就農者の年齢構成

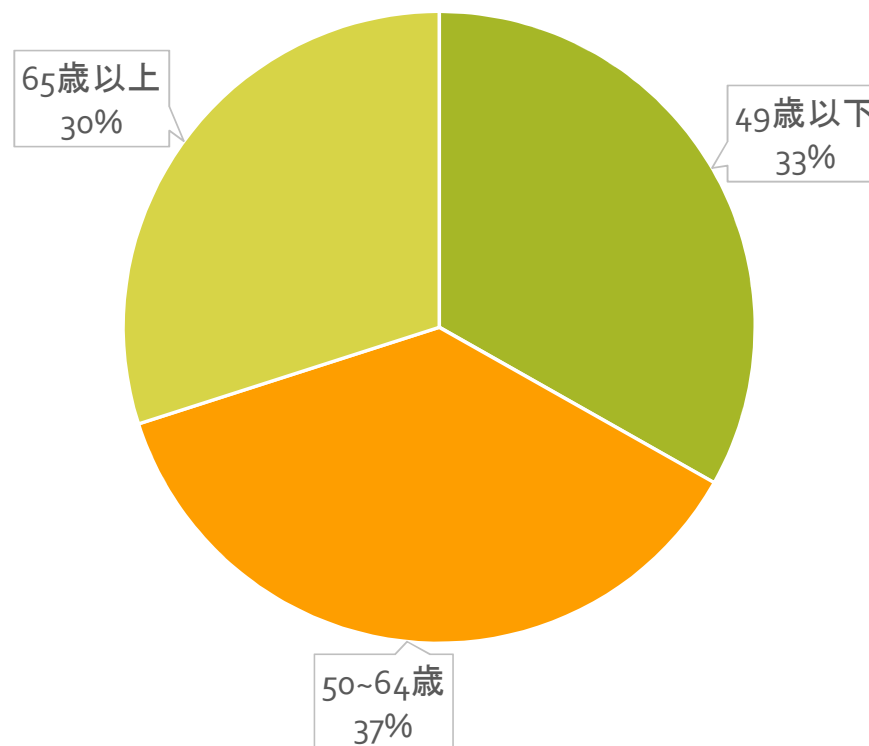


図6 新規就農者の年齢別人数の割合(2019年)

資料：農林水産省「新規就農調査」

本シンポジウムの目的

- **統計の数字には表れない生業・暮らし・工夫・日々の想いを知る**
 - 豊かな営み、そして、**創造的で面白い！**
 - どんな**課題**があるのか、**実践者の目線**で考える
 - 若手、そしてさらに**次の世代につなげる**ために

- **ステレオタイプ(紋切り型)の思考・政策を再考する**
 - 日本農林漁業の危機(高齢化等)→大規模化・法人化・スマート技術？
 - それって本当に実態に合っているの？
 - それって本当に持続可能なの？

- **世界へのメッセージ**
 - 世界食料フォーラムで**日本から何を発信するか**

パネリスト

➤ I : 小川美農里さん(チャルジョウ西会津農場・福島県)

農業

➤ II : 杵塚歩さん(ちいっとらつつ農舎・静岡県)

林業

➤ III : 天野圭介さん(ONETREE・静岡県)

➤ IV : 澤大輔さん・岡崎良平さん(千葉県沿岸小型漁協・千葉県)

漁業

パネリストにお願いしているスピーチ

➤私の生業と暮らし

- ご自身の活動(農林水産業など)、家族と暮らし、今の暮らしを選んだ理由について、持続可能性とのつながりを軸にご紹介ください。

➤農林水産業を次世代につなぐために

- 今、日本では農林水産業の生産者が減少し、高齢化しています。若手の皆さんからみて、若い人が農林水産業を始め、継続するために、どのようなことが必要でしょうか。

➤日本から世界にむけて

- 2030年までに持続可能な農林水産業・食料システムを構築するために、どのような情報を発信したいと思いますか。